



盾と刺股を実際に使い、暴漢への対処法を学んだ職員ら

暴漢への備え万全に

札幌の殺人
未遂を受け 製鉄病院で講習会

室 蘭

製鉄記念室蘭病院（松木
高雪病院長）の院内暴漢対
処講習会が12日、室蘭市知
利別町の同院で開かれ、同
病院の職員らは真剣な表情

で刺股や盾の使い方などを
学んだ。

同院の医師、看護師ら約
80人が参加。元北海道警察
警部補の沼倉隆彰患者相談

室長が講師となった。同講習会は7日に札幌市で発生した病院医師への殺人未遂事件を受け、同様の事態が起きた場合、どのように対処するかを学習することが目的。3年前にも同様の講習会を開催している。

耳鼻咽喉外来で刃物を持った患者が暴れたと想定。沼倉室長は刺股と盾の使用方法をレクチャーした。その後、沼倉室長が犯人役となり、選ばれた男性2人はそれぞれ盾と刺股を手に、時折指導を受けながら、教えられた内容を実践した。出席者らは真剣な表情でその場面を見つめ、万が一の事態への備えを万全にしていた。

（池田勇人）